

現在のウラジオストクについて

ネザムトチノフ・ヴィクトル

最近の2・3年で、ウラジオストクを訪れたことがない場合、今度の訪問は驚かれることでしょう。まず、ウラジオストクの「玄関」と言われる国際空港です。入国・税関手続きなどはスムーズで、日本の空港と比べてもほとんど同じくらいの時間で済みます。町の中心までの交通時間も減りましたが、新しく出来た道路や橋などは中心の渋滞をまだ解消していません。何かの打ち合わせを計画する場合、時間の余裕を考えた方が良いでしょう。

人口は多くありませんが、新しい店、喫茶店、寿司屋、レストランなどがずらりと並んでいるのは目立ちます。町のインフラは2012年のAPEC首脳会議に向けて国の予算によって一部良くなりましたが、今後の費用はどうか分かりません。

《Made in Japan》の商品が増えるようになりました。化粧品、雑貨の専門店が現れ、スーパーでリンゴだけでなく、コーヒー、お茶、カレー、ドレッシング、海藻などに注目が集まっています。ただし、価

格は別の事です。つまり、青森産のふじ、王林などのLサイズは1kg当たり640ルーブル(約1,990円)になっています。1個は約700円です。大きな消費者である中間層は月給が2万ルーブル前後で、高いと感じています。日本製の様々な商品がもっと売れるだろうが、現地の輸入会社は採算を考えて、早く販売出来る商品だけを多く輸入することを好むようです。

沿海地方全体としての主要な課題は、外国投資を誘致するという事です。ミクルシェフスキー知事によると、ハイテク製造業を発展させなければならないということです。近いうちに、韓国、日本、香港、中国で地方の可能性のプレゼンテーションが計画されています。また、去年サンクトペテルブルグで開かれたエネルギー担当閣僚会議ではウラジオストク近くに液体天然ガス工場の建設に向けて日両国政府が協力することで覚書に調印しました。このプロジェクトもまた両国経済交流を促し、中小企業の間での取引の活性化が期待されています。



ウラジオストクの商業港



2012年ロシアAPECの際に建設された都心の新橋「黄金橋」市民にとっては重要な橋となっている

ロシア語講座受講生募集!

今年も当協会専門アドバイザーであるネザムトチノフ・ヴィクトル先生を迎え、ロシア語講座を開講します。全くはじめての方でもヴィクトル先生が熱心に教えてください。

ご興味のある方はぜひご参加ください!

- 期間 初級：平成25年4月11日(木)～8月末予定
中級：平成25年4月12日(金)～9月上旬予定
- 時間 初級：16:15～17:45(90分) 20回
中級：16:00～17:00(90分) 20回
- 受講料 15,000円(テキスト代込み)
当協会の会員の方は無料です。
- 場所 秋田市旭北地区(詳細は開講前にお知らせします。)

- 申込み締切 平成25年4月8日(水)
- お申込み・お問合せ 一般社団法人 秋田県貿易促進協会 TEL: 018-896-7366



平成24年度ロシア語講座 初級クラスの風景

一般社団法人 秋田県貿易促進協会

秋田市旭北錦町1番47号
秋田県商工会館5階
電話：018(896)7366
FAX：018(896)7367
Email：info@a-trade.or.jp

協会のホームページも
ぜひご覧ください↓
<http://www.a-trade.or.jp/>

あなたの貿易ビジネスをサポート!



一般社団法人 秋田県貿易促進協会



NEWS LETTER

第4回理事会等を開催
～平成25年度事業計画(案)・収支予算(案)～

2月26日、秋田ビューホテルで平成24年度第3回正副会長会議、第1回企画委員会が開催され、平成25年度の事業計画(案)及び収支予算(案)を審議しました。

また、これを受け3月5日秋田県商工会館「ホール80」において平成24年度第4回理事会が開催され、平成25年度の事業計画(案)と収支予算(案)が審議・承認されました。

平成25年度は、これまで蓄積してきた海外ネットワークをより強固なものにするともに、これまで事業を実施してきた地域で定番化しつつある県産品のさらなる周知を図るほか、新たな地域におけるニーズの把握や貿易取引ルートの発掘を目指し、県や関係団体と連携を図りながら事業の推進に努めていくことを確認しました。

また、昨年度より取り組みを開始した「海外企業マッチング支援事業」については、対象地域の拡大を図り、会員企業や県内企業の方々を活用しやすい事業となるよう情報収集に努め制度の拡充をしてまいります。

しばらく続いた円高・デフレ、欧州・中国の景気低迷の基調から先行き不透明な経済環境でありましたが、昨年末に発足しました新政権による日本経済再生に向けた緊急経済対策や最近の円安傾向を追い風に、平成25年度も貿易取引の推進に積極的に取り組んでまいります。以下は、今回審議された平成25年度事業計画(案)概要です。

●平成25年度事業計画(案)概要

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 組織・財政連携の強化		監査会 正副会長会議 理事会	定時総会				正副会長会議		正副会長会議		正副会長会議	理事会
	会員加入促進(平成25年度末会員目標185件)											
	収益事業の推進と構築(具体的収益事業、外国語翻訳、ロシア語講座、海外企業マッチング支援事業、各事業の参加費) 関係団体(県市町村など行政機関、秋田県環日本海交流推進協議会、ジェトロ秋田貿易情報センター、県内商工団体)との連携強化											
② 貿易基盤強化の意見要望			秋田港湾整備の中央要望									
	意見要望活動 ポータルサイトの支援											
③ 貿易相談・貿易普及啓発の促進	貿易相談 ①職員による窓口・巡回相談(目標200件) ②専門アドバイザー4名の活用による巡回相談											
	情報提供・広報活動(メルマガ毎週金曜配信、セミナー・講習会・貿易関連情報のホームページ掲載)											
④ 貿易取引拡大促進事業	貿易普及促進講習会	会報発行					会報発行	貿易普及促進講習会	会報発行		会報発行	会報発行
	インドネシアジャカルタ商談会			韓国ソウル商談会	シンガポールバイヤー招聘	タイバンコクフェア	台湾微風広場販促キャンペーン	シンガポール秋田フェア				
海外企業マッチング支援事業(対象地域:北京、上海、大連、香港、ジャカルタ、ウラジオストク、バンコク)												

平成24年度第4回理事会の様子



バンコク北東北フェアへ参加

昨年10月に開催した「バンコク伊勢丹 秋田フェア」の実績を踏まえ、好評だった商品の定番化と更なる県産品の周知のため、同会場で1月31日から2月13日まで開催された「北東北フェア」へ参加してきました。

フェアでは秋田からは菓子類や稲庭うどん、あきたこまちを使用した弁当などが販売されました。中でも「かりんとうまんじゅう」の実演販売は前回の秋田フェアと同様に好評で、まだ課題は残っているものの商品の定番化に向けた手応えを感じることができました。他の商品も含め、今後も商品の定番化に向けたサポートを続けていきます。

フェア以外では、現地輸入業者に対し日本酒のPR活動を行いました。タイでは法律により百貨店やスーパー内ではお酒の試飲販売ができず、また販売可能な時間帯も制限されているためフェアなどのイベントで他の食品と並べて販売するのは困難です。しかし、日タイEPAにより2012年から清酒の輸入関税が0%になったことや、現地で日本食レストランが増加していることから今後さらに日本酒の輸入が増加していくものと考えられています。今後はその流れに乗り遅れないようにタイへの輸出ルート、現地での販売ルートの早期の確立が課題となります。

来年度はタイにおける更なる県産品の販路拡大のため、百貨店でのフェアへの参加の他、現地飲食店や輸入業者を対象とした日本酒や食品のPRイベントを各機関と連携し開催したいと考えています。

北東北フェアの様子



フェアにおいて実演販売したあきたこまちを使用した弁当



来県したタイの訪問団～森吉山阿仁スキー場にて



タイの訪問団による竿燈体験
～ねぶり流し館にて

タイ経済交流訪問団来秋 ～タイ商談会ミッションフォローアップ事業～

昨年10月のタイ商談会ミッションの際、同国旅行業協会等に観光・貿易等のための来県を要請していたところ、これを受け入れ、去る2月7日～10日、タイ経済交流訪問団32名が来秋いたしました。本事業の主目的は、タイから秋田県への観光ツアーの商品化の可能性を探ることと、県産品の流通拡大でした。

一行は、8日は森吉山阿仁スキー場でそり遊びを体験した後、冬の田沢湖を視察しました。夕方には駒ヶ岳グランドホテルで観光プレゼンテーションが開かれ、県内のスキー場や温泉、桜の名所など本県の見所、名産がPRされました。翌9日は角館の武家屋敷通りで雪景色の美しさを堪能し、昼は「佐藤養助横手店」で稲庭うどん実演を見学・試食しこれも好評でした。ふるさと村では、広場でのかまくらを実体験し、湯沢の両関酒造様では酒蔵の見学と秋田酒の試飲を楽しみました。同夜、秋田ビューホテルで開催された歓迎交流会では、秋田の食を楽しみつつ終始打ち解けた雰囲気の中で意見交換が行われました。10日は、ねぶり流し館での竿燈演技に拍手喝さいし、更に希望者が竿燈を初体験しました。

訪問団の方々は、春の角館等の桜景色や夏の竿燈にも大いに興味を示しましたが、雪のないタイの人にとっては冬の秋田がやはり一番魅力的とのことでした。そして、訪問団代表でタイ旅行業協会のアナーク主席顧問様からも、「雪遊びと温泉を組み合わせた秋田ツアーの商品化は可能」との大変ありがたいご意見を頂くことが出来ました。

台湾より日本酒のバイヤーを招聘

1月21日から24日まで台湾で日本酒の普及に取り組んでいる日本酒学講師の資格を持つ歐子豪氏を迎えて、新酒の仕込みの真最中の県内蔵元の視察訪問をいたしました。

同氏は、台湾・台北において日本食の飲食店や焼酎・日本酒の輸入会社を経営する傍ら、台湾において日本酒の普及・啓蒙にも取り組んでいます。特に日本酒の利酒師の育成や自身が開講する料理教室などを通して日本食と日本酒の相性などを現地の方々に紹介する活動をしています。

今回の招聘は、昨年当協会がフードタイペイに参加した際、台湾行政院から現地における日本酒の普及活動をしている方として紹介されたことがきっかけとなり実現しました。フードタイペイ以降、歐子豪氏と情報交換を続けていた中で、実際の秋田の酒造りの現場の視察や秋田の食材を味わうことでより秋田県を理解していただくとともに今後の台湾への輸出に向けた提言や支援を求めべく招聘したものです。

秋田のこの冬の雪の多さや厳しい寒さに大変驚いていたものの、訪問した各蔵元の熱い酒造りへのこだわりや新酒のテイスティングでは改めて秋田の酒の良さを実感していただきました。

また、今回の招聘には利酒師を認定する日本酒サービス研究会の副会長や台湾からは同氏が今年台湾で発行を予定している日本酒の紹介本の編集者も同行し、これからの秋田清酒や食材の現地での展開が期待される招聘事業となりました。



今回招聘した日本酒バイヤーの歐子豪氏(右)



酒蔵での新酒のテイスティング



日本酒の原料となる酒米を確認



搾りたての日本酒を試飲